

令和6年度 江戸川区立第五葛西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>(1)深く考える子(思考力・判断力・表現力豊かで未知の状況にも対応できる子) (2)仲よく助け合う子(実際の社会や生活で、人とのかわわりを大切にする子) (3)すすんでやりぬく子(学んだことを人生や社会に生かそうとする子) (4)体をじょうぶにする子(心身ともに健康でたくましい子)</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○児童一人一人を大切にし、豊かな心を育む学校 ○確かな学力の定着を保証する学校 ○教員同士が学び合い、支え合い、高め合う学校 ○家庭、地域と協働して教育活動にあたる学校 ○心豊かで優しい子 ○身体も頭もきたえる子 ○最後まであきらめずに取り組む子 ○いつも笑顔を絶やさない子 ○児童一人一人を大切にし、使命をもって教育にあたる教師 ○互いに学び合い、支え合い、高め合う教師 ○児童、保護者、地域から信頼される教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果>国語科において、読解力を向上する校内研究を進め、よりわかりやすい国語科の授業についてのスタンダード化を図り、それぞれの階層の教師の授業力を向上することができた。 体力の向上において、「パワフルチーズデー」やなわとび月間、ランニング月間など、様々な取組を計画・実施したことで、児童の運動意欲が高まり、体力の向上に繋がり、また活発に外遊びを楽しむ児童が増えた。 <課題>校内の研究や様々な教科や学級運営などのOJT研修を軸として教員の資質・能力の向上をさらに図り、国語科教育の推進や児童の基礎基本の定着への一層の充実を目指す。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・「江戸川区学力向上プロジェクト」の取組や補習などによる指導の充実と授業力の向上	・教科担任制の導入 ・電子ドリルや東京ベーンクドリルの活用(家庭学習も含む) ・外部指導員と連携した放課後の補習 ・「江戸川区学力向上プロジェクト」のよむYOMUワーク ・江戸川区学力定着度調査の実施(4.5年生)と学習カルデにおける家庭との連携	学年末テストにおける到達度80%以上の児童の割合+0.5% 教科担任による授業の実施…週1回 「マイルシード江戸っ子studyweek」の実施…学期1回放課後の補習(年35回) よむYOMUワーク、年間30回の実施(4年生は15回) ・学習カルデにおける、学習状況の把握と反復練習を1単元3回	A	A	・習熟度別少人数指導、放課後の外部指導員による補習の成果が、学年末テストの結果等に基礎的な学力の定着として表れてきている。 ・高学年では教科担任制の実施、児童の学習理解を学年全体で目指すことができています。 ・江戸っ子studyweekを中心に学習アプリケーション(マイルシード)を活用することができています。授業時の復習や学習カルデの苦手分野の復習にも今年度は活用を広げている。 ・放課後支援教室の活用をしているが、支援が必要な児童へ対応するさらなるアプローチの必要感が増している。	A	東京都や江戸川区の水準に近づけるよう、教職員の方々の努力が見られる。 教科担任制の導入した成果が分かるような、活動や報告などがあるとよい。	・朝のモジュールの時間を活用した「タブレットスタディタイム」を実施し、学習アプリケーション(マイルシード)をさらに活用していく。 ・東京ベーンクなど様々な教材を授業内で活用している。また、家庭学習でも定期的に取り入れていく。 ・算数科で「学習カルデ」を活用し、個々の苦手の克服をメインテーマに自学の質をあげていく。 ・支援が必要な児童については補習教室との連携を図るとともに、授業ではスモールステップを積み上げる。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書科年間計画の実施 ・読書月間の実施 ・保護者がボランティアによる読み語り、図書館整備 ・探究的な学習を取り入れた調べるコンクールへの参加	読書月間…年3回 保護者ボランティアによる読み語り…年12回調べるコンクールへの応募…全学年 探究的な学習についての教員研修…年1回	A	B	・読書科では本の紹介や魅力を伝えたり、書評したりカードを作成し、児童の発達段階に応じた探究的な学習を実施することができた。 ・調べる学習コンクールの応募数を上げていくために、今年度は葛西図書館から派遣いただいた司書さんより調べ方の授業を受けたり、夏休み前に担任が事前指導を行って、コンクール参加を促した。継続的に指導に取組、普及させていく。 ・保護者がボランティアの読み語りや図書整備、朝読書、年に3回の読書月間の取組みにより、児童が本に親しむことができた。	A	パソコンや携帯電話が普及している中で、読書量の低下が進んでいると思うが、学校は地道に活動を続けている。 ・読書月間、特定の曜日だけではなく、常時図書室を解放できるように計画・実施をしていく。 ・継続的な探究的な学習に取り組むため調べ学習コンクールへの積極的な取組と、継続的な指導を行っていく。 ・図書の選定で全員で選書する時間を設けた。来年度も図書の専門員のアドバイスで選書したり、全員で選書する機会を設けたり、学校全体で読書活動に積極的に取り組めるようにしていく。	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・体力テストについて、東京アルファの円滑な導入・活用と運動技術の向上	・運動遊び「パワフルチーズデー」の実施 ・なわとびチャレンジやランニング月間の実施 ・東京アルファを使用した体力テストの実施と、授業における手本動画の活用	「パワフルチーズデー」…年20回 なわとび月間…学期ごとに期間を定め、年間3回ランニング月間…3学期に実施 体力テスト…タブレットを使用した動画での事前指導や数値把握	A	A	・雨や熱中症警戒アラートの影響で1学期のパワフルチーズデーの実施回数が少なくなった。 ・なわとび月間を中休みに実施すると、児童の意欲向上を図ることが難しい。休み時間ではなく、朝の時間など全校児童が揃った時間に体制をきちんと整えて実施するべきである。 ・体力テストに向けて、教員の演技研修を行ったことで、児童に適切に指導することができた。 ・全学級、東京アルファの活用をすることができた。	B	ゲームやYouTubeに夢中な子供たちの外遊びの時間が減ったりしていることから、体力的に心配に思っている。継続的な取組を求める。 ・パワフルチーズデーは、引き続き取り組んでいくとともに、雨天時に対応についても時間や場所などの内容変更を考えていきたい。また、内容については担当教員だけでなく幅広く意見を求めるようにする。	
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援研修会の開催 ・特別支援夕会での情報交換(月1回) ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・都立鹿本学園との副籍交流	特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回 副籍交流…間接交流、月1回、直接交流、各行事	A	A	・定期的に特別支援夕会が開かれることで、支援が必要な児童の状況を学校全体で共通理解が図られ対応することができた。 ・エンカレッジルームを利用する児童の対応は当番制で取り組むことができています。 ・特別な支援を要する児童は増加傾向にあり、さらなる対応を考えていく必要がある。	A	それぞれの個性に合わせた、個別最適な学びの実現や指導は難しいと思うが、先生方は努力されていると思う。 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施やエンカレッジルームの活用促進および特別支援研修会の充実をお願いしていきたい。	
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyapaer-QUの活用	・Q-Uの活用(家庭との連携) ・生活指導連絡協議会での情報交換 ・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回)	いじめ防止週間…年3回 Q-Uの実施と分析…年1回 生活指導夕会…年30回 特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回	A	B	・いじめ防止週間やアンケートの実施により、情報共有を図りながら学校としての対応ができています。 ・学期ごとの生活アンケートの結果をもとに、児童から話を聞く機会を確保し、生活指導に当たることができた。 ・不登校対策委員会やいじめ対策委員会を適切にタイミングで開催するなど、教職員の共通理解のもと、生活指導にあたることができています。	B	不登校や第五葛西小学校だけでなく、全国的な問題で、数も増えている。様々な取り組みで対処されていると考える。 学校生活において児童が協力し合い、自分や互いに認め合う姿が見られ、実感できる場が多くあればよいと思う。 ・学校生活アンケートやQ-Uの実態調査などを日常的な児童指導に生かしていく。 ・引き続き、「報告・連絡・相談」を徹底し、校内の共通理解を図ったうえで、学校全体として取り組んでいきたい。	
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校だよりや学年だより、年間行事予定や各種年間計画のホームページ掲載(随時) ・情報発信アプリ(tororo)の活用(随時) ・学校公開・土曜授業の実施	ホームページでの情報発信(随時) 情報発信アプリ(tororo)の活用(随時) 学校公開・土曜授業の実施(年4回)	A	A	・ホームページやアプリでの情報発信が充実している。 ・時間制限や人数制限がなく、学校公開を行うことができ、幅広く家庭へ公開することができた。 ・巡回指導教室についても公開することができた。	A	学校公開に行かせてもらい、のびのびとした児童の様子や学校の様子が分かり、良かった。 学校評議員はもっと学校に足繁く訪れる必要があると思う。行事等参加していきたい。	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・評価項目を整理し、学校評価の効率化、適正化を図る。	重点目標、取組、指標等の周知…5月まで 中間評価の周知…10月まで 外部アンケート等の実施…2月まで 最終評価の公表…3月	A	A	・アンケートの方法はICTを使って、保護者がより回答しやすくなり、教職員も集計しやすいものへと変えることができた。	B	保護者の意見をアンケートを使って集め、今後の教育活動に生かされるよう、努力されている。 ・アンケートの回収方法はICTを使って、集計の簡略化を図る。集計結果や結果に基づく改善策を地域や保護者に周知する機会や方法について、改善していく。	
	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の充実	全教員が連携プログラムを理解し実施 部活動体験…年1回 授業公開…年1回	A	B	・ふれあいコンサートでの中学生との交流や部活動体験の実施など取り組むことができています。 ・児童に関する申し送りも滞りなくできています。 ・打ち合わせで教務主任による意思疎通が図れた。	B	授業公開、部活動体験はとも大切だと思いが、準備等が大変な面ではと思う。課題に取り組むしながら継続してほしい。 ・ふれあいコンサートは本校児童も参加できるように取り入れた。それと共に業務内容も見直し、労働力、稼働時間の無駄がないようにしていく。残業時間や休日出勤について、減らしていくよう全校で取り組む。	
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	定時退勤日…年12回	A	B	・定時退勤日を設定し、実施することができている。 ・残業や休日出勤をする職員が以前より減ってきている。	B	働き方改革は一般企業と違い、難しい。教員を増やすことも必要なのではないかとと思う。 ・働き方改革の一つとして、校内、職員室の整理整頓を行った。それと共に業務内容も見直し、労働力、稼働時間の無駄がないようにしていく。残業時間や休日出勤について、減らしていくよう全校で取り組む。	